

# いの流水俳壇

## 「当季雑詠」

青空をキャンバスとする柿若葉

岡村 嘉夫

(評) 晴れあがった青空をバックに柿の若葉が輝いている。若葉の季節になった。若葉の美しさは木によつて様々であるが、季語として椎若葉、檉若葉、樟若葉など、特に樟若葉は、紅色、萌黄、浅緑色と新緑が噴き出すように色が変わつて見事である。掲句は柿若葉である。初夏に明るい萌黄色で艶があり柔らかく美しく輝いている。青空をバックに柿若葉の描写、一幅の絵画と見たのである。

○柿若葉巻尾きりりと秋田犬

長谷川歌子

春の日にあてなく入りし古本屋

岡本とも子

(評) 寒さが身に沁む冬には家に籠もりがちであったが、四月も中旬ともなれば温かくなり戸外に出ることも多くなる。特に中高年ともなればホッとする季節。ある日散歩の途中古本屋があったので何げなく店に入った。買いたい本があったので入ったのではない唯通りすがりに入ったのである。

○瀬戸の海春の小島を浮かしけり

岩田 清司

初音して逡巡の歩を給いけり

伊藤 萩甫

友草 水月選

(評) 早春に鳴き始める鶯の囀りを「初音」と言い、春告鳥の名があるように春を告げる鳥でもある。気温の上昇とともに山上へ北国へと移動する。掲句は鶯の囀りをふと耳にうっとり聞き入つて歩くのをためらつているのである。「逡巡の歩を給いけり」改まった表現で、ためらいの歩を頂いたのである。

我が家では裏山で毎日の如く初音を耳にしており作者の心境がよくわかる。投句の常連の方だが詩の感性の鋭い句が多い。

○鶯のやゝはつきりと雨の中

深見けん二

チャイム鳴るまでふらこ漕ぎ止まず

津田 久美

(評) 運動場は子どもたちの歓声で賑わつており、特にふらこには人気があり入れかわり立ちかわり休むことなく揺れ動いているが、一たびチャイムが鳴るとあれほど賑わつていた運動場も静かになつてしまふ。小学校や幼稚園では毎日繰り返される風景である。ふらこは「ふらこ」のことで「鞆」とも言われ春の季語で、古く中国から入つてきた遊具である。

○赤彦の墓ぐらんこの保母に訊く

伊藤 白潮

### 二句抄

五十年役を仕舞ひて夫婦雛

國田 貞子

震災の海より届く春真鱈

片岡 包女

山笑う人の生死を知らずして

川村 光子

下戸にして甘きも嫌い夏みかん

川村 光子

歓迎の言葉に代わる蓬餅

竹崎 光子

朝霞棚田の景も浄土めく

竹崎 光子

駅を出て線路の曲る先に春

間 浩太

夢いくつ捨てしか余生胡瓜詩く

間 浩太

縁側で読書三昧長閑なり  
老体を元気づけるや芝桜  
散る花を踏みつて幼の二歩三歩  
蝶となる黄色いカパーランドセル  
風に揺れ雨に音立て竹の秋  
我がままに生きる人生春うらら  
三寒四温風邪の狙っている弱気  
少しづつ背骨が伸びる春の風  
海に向く社の波止場花吹雪  
もろもろの水尾の混み合ふ春の川  
ミレー展出て啫りの径が好き  
朧月役者くずれの今は主夫  
風染めて落花を急ぐ石の階  
鴻に舞ひ行き先告げず花笈

森岡 照月

大川 節弥

小野川町子

竹崎たかひろ

岡村 嘉夫

岡本とも子

伊藤 萩甫

津田 久美

友草 水月

### 名句鑑賞

水月

古池や蛙飛び込む水の音

松尾 芭蕉

この句は俳人でなくてもよく知られており、俳聖芭蕉の開眼の句であると言われている。

古色蒼然とした古池、暗く濁り澱んだ水面、いかにも浄寂な世界その池に突然蛙が飛び込んだ。その水音はいつまでも耳の底に残っている、蛙の飛び込んだ水輪も消えて、もとの静寂に幽玄の世界に還つたのである。

句を読んで後に残る余情余韻が俳句の生命である。

### 次題 「当季雑詠」五句

締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

画 8 9 3 1 2 0 1 2

## 年間450人以上に読まれている小冊子「しあわせなお墓づくり」有料広告

この小冊子は高知県内で2,000人以上の方に読まれており、このようなお声を頂いております。

- 何を決めれば良いのか分からなかったのと、とりあえず小冊子を頼みました。私たちにとても非常に参考になり、お墓へ初めて行ったときには「ああ、良かった」と声が出ました。(M様 高知市)
- 冊子を読み進めていく中で、どの石屋さんからも説明のないことがたくさん書かれてあり驚きでした。ただ、自分でも知識を付けたいと良いお墓はできないんだと。完成したお墓は自分で創り上げた気持ちで思いの詰まったものとなりました。(M様 南国市)
- インターネットで小冊子を頼んだことがきっかけで、お墓を作ろうと思いました。石材店へ足を運ぶことは不安でしたが、親切な納得のゆく説明を受けこの人なら信頼できると直感し完成した墓は実に立派でした。(Y様 土佐山田町)



先着  
**50名様**  
**無料**  
プレゼント  
※7月まで

お申込みは今すぐ! ☎ 0120-641-148 〒781-2120 高知県吾川郡いの町枝川12248-1(有)三代目 竹内石材のインター店  
※お申込みの際は、お名前、ご住所 (午前8時～午後6時、年中無休) 「しあわせなお墓づくり」小冊子プレゼント係 TEL.088-856-7502  
※頂いた住所とお名前は、小冊子やご案内をお送りする以外は使用致しません